

序にかえて

計 画 と 実 際

文学部教授

横 田 健 一

昨春フィリピン・ミンドロ島へ探検部が遠征したときのことであつた。高度 2,487 m のミステリアス・マウテンと呼ばれるバコ山登頂にあたりどのルートをとるか大きな問題であつた。

西（オキシデンタル）・ミンドロの首府、サンホセ市へ3月24日についてまもなく、山中のベンジャミン・トルデシラス氏（ミンドロ島の生き字引として尊敬されている人・もとフィリピン政府森林調査官）を訪問してその意見を聴き、また我々の宿生であるアルマンド・デ・ラス・アラス氏をかこんで何回か作戦会議を開いた。浅生重捷君をはじめ数名の諸君は、サンホセ市から近いブクサング河をさかのぼる西南方から攻略するルートを希望し強く主張した。

しかしトルデシラス氏やアルマンド氏ら現地の人たちは、このルートを危険だとしてしりぞけ、むしろ東南方から遡るボガボン河のルートを取るのが最もよく、それが当然であると主張し、かなり激しい議論が夜おそく迄行われた。

地図でみると、西南ルートはサンホセから真つすぐバコ山へ向うし、また地形もグラス・ランドがほとんどで、机上では登山が容易にみえる。東ミンドロは湿潤で雨量が多く、ジャングルに掩われているので登高にはジャングルを切りひらかねばならず、困難なようにみえる。

結局、現地案内者のトルデシラス氏らの意見に従ひボガボン河遡上コースをとり、帰路には三浦浅生、岩本、松村の四君が、トルデシラス氏の長男フエリクス君（愛称トド）と共にグラス・ランドとブクサング河を下るコースを降りることで妥協した。本隊は登りコースをまた下つた。

このブクサング・コースを下つた諸君の話聞き合わせてみるとなるほど危険であり、また困難

なコースであることがわかつた。

グラス・ランドはたしかに平坦でみはらしもよく歩きやすい快適なコースである。しかし場所は熱帯であり、日中は猛烈な直射日光に照らされる。それで下りにこのコースを選んだ隊は、第2日目から日中の歩行を避け、早朝に起き涼しい間に行動したという。その点ジャングルは木陰で、はるかに涼しいのだ。とくに問題は水である。グラスランドには水がない。水のみたくなると、河へ降りねばならぬ。ジャングル地帯の河は樹木が多く湿潤地帯で水が豊富だが、乾燥地帯である。グラスランドの河は木がなく、水を溜めないで、水が乏しい、それで、滴り落ちる水を長い時間かかつて容器にためこんで呑んだという。

何よりも難点はグラスランドから数百メートルの断崖に下り谷におりて水のみ、また数百メートルを登らねばならぬ。その場合、ジャングルならばつかまれる木の根や蔓に不自由はないが、グラスランドの崖にはそういう木の根や蔓はない。とくに直射日光や風雨に常にさらされて風化が激しく、崩れやすい。

グラスランドを下つたブクサング隊は非常に疲労困憊して帰還した。フィリピン現地人がこのコースに反対した理由もよく分つた。

地図による机上の作戦計画はとかく地形や距離だけを考へて、他の条件を看過しやすい。やはり現地に明るい人々の経験を参考することが絶対に必要である。

探検部の諸君が今後、未開、未踏査の土地に出かけることも多いであろう。その際、以上のような例を参考にし、慎重に計画をたて、行動してもらいたい。